

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年8月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670900501
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム醍醐新町
所在地	京都府京都市伏見区醍醐新町裏町24-4 (電話) 075-573-0301

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋2丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年7月26日	評価確定日	平成19年9月28日

## 【情報提供票より】(2007年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	6月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤	5 人,	非常勤 5 人, 常勤換算 8.0人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40000~80000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1270 円	

### (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	68歳	最高	88歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、医療、介護、健康保育、教育研究の総合ネットワークを持つ洛和ヘルスケアシステムの中のグループホームの一つです。民家を2軒合わせた住宅改修型の大変家庭的なホームです。家の中で入居者個々が過ごしやすいような空間作りと、その人らしく暮らせるように趣味や生活歴を活かしながらの生活が支援されています。法人としても教育体制や医療連携等が整い、バックアップ体制があり、それを基盤にチーム作りが考えられています。入居者と共に支えあいながら暮らしていくために、スタッフ間の連携を重視し、カンファレンスや話し合いをしながら、チームケアが実践されています。また、管理者を始めとし、常に向上心を持ち、皆でより良いホームを作っていくという意欲的なホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回①伝達ノートに読んだ人のサインがなかった。②洗濯場の洗剤が目につき手の届く場所に置いてあった。以上の2点について指摘を受け、速やかに改善しています。伝達ノートを読んだ職員のサインの徹底し、洗剤はシートで覆い目のつかない所へ収納しています
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者が自己評価を行いました。その結果を職員全員で話し合い改善に向けて取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの活動報告、行事報告、入居者の心身の様子等を報告しています。また、地域に溶け込んで行きたい旨を伝えています。今後に向けて、地域の子供たちとの交流を検討中です。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に4回便りを作成し、ホームでの行事や職員の紹介などを行い、家族の面会時や随時電話連絡で、個々に様子を伝えています。運営推進会議に参加している家族からは直接意見や要望を聞くことができます。家族アンケートの中にも意見や要望を記入する欄を設け、記載があった事柄について会議で対策を話し合い実行しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、区民運動会や地蔵盆の際のバーベキューなどに参加したり地域の住人との交流を図っています。運営推進会議では参加者も多く、地域の理解も得られています。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	洛和会の法人としての理念を掲げられ、法人の方針として地域の中での生活や利用者一人ひとりの個性に合った介護を目指しています。	○	現在、地域の中での暮らしやその人らしく生活していくことについて支援することも取り組んでいます。職員皆で話し合い、グループホーム自身の理念を掲げられると更に良いのではないのでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関に掲示し、管理者は日々の業務の中で、意識的に伝えながら指導を行っています。また、会議等でも伝えています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、区民運動会や地藏盆の際のバーベキューなどに参加したり地域の住人との交流を図っています。運営推進会議では参加者も多く、地域の理解も得られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、指摘を受けたことについては、職員全員で同じ意識を持ち速やかに改善しています。今回は管理者が自己評価を行いました。職員全員が外部評価に対して理解し、改善に向けて話し合い、取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動報告、行事報告、入居者の心身の様子等を報告しています。また、地域に溶け込んで行きたい旨を伝えています。	○	特に地域の子供たちとの交流を中心に、取り組みを具体化し運営推進会議の議題に上げ、協力を得ながら勤めていきたいと考えており、それが実現されることを期待します。

洛和グループホーム醍醐新町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの担当者は、運営推進会議に参加していますが、直接区の職員の参加や連携は取れていません。	○	入退居の報告時等に、学校や保育所との交流を持って行きたいなどの相談や挨拶をする機会を作りながら連携をもっていこうと考えています。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回、便りを作成しホームでの行事や職員の紹介などを行っています。また、家族の面会が定期的であり、その時や随時電話をかけたりにして個々に様子を伝えています。個別に出納帳を作成し、不定期に報告を行っています。	○	ホーム便りは、ホームの様子と入居者の様子とを載せ、毎月発行していく事や、出納帳も月々に報告を行っていくと考えています。そのことにより、今まで以上に家族が安心できると共に信頼関係が築かれることを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加している家族からは直接意見や要望を聞くことができます。家族アンケートの中にも意見や要望を記入する欄を設け、記載があった事柄について会議で対策を話し合い実行しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代時には残った職員で説明しながら、また新たになじみの関係が築いていくよう、関わっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、現任と分け、法人での内部研修が充実しています。外部研修の受講も必要に応じ受講でき、報告書を記入し回覧等で他の職員にも周知しています。	○	今後は、職員個人ファイルを作り、どのような研修を受けてきて、どんな研修が必要かを考えながら受講できるような取り組みや伝達研修を充実していこうと考えています。ホーム全体としてではなく、個々の職員に対しての教育・評価として体系的に行われることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の特別養護老人ホームや、同法人内の施設との交流があります。また、グループホーム協議会にも参加し、情報の交換や勉強会を通してサービスの向上に活かしています。	○	他法人のグループホームとの交流が少なく、交換研修やネットワーク作りが課題となっています。実現されることで、当該ホームでのサービスの向上につながることを期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居判定会議時には、ホームに来てもらい、お茶を飲んだり、できるだけ一緒に過ごしてもらっています。本人に合わせてながら環境作りを行い、今までの生活で続けていけることはないかを検討しながら、馴染んで生活できるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活をしている、入居者から教えてもらう気持ちを大切にしながら、生活の支援をしています。特に言葉遣いには留意しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いてアセスメントを行い、家族・本人に希望や意向を聞いています。また、認知症のため意向を表す事が難しい人には、表情などからも察しながら意向を確認しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てるとき、見直しのときには、家族や本人に意向を聞いた上で、カンファレンスを行い、立案に至っています。	○	カンファレンスに家族が参加したり、家族の意向を立案・見直しの際に聞き取り記録に残していくことを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っています。カンファレンスを行い話し合いながら、アセスメントも見直し、その状況に合わせて介護計画が立てられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年間の行事とは別に、その方の希望に応じた個別外出の支援を行っていたり、入院時には早期退院に向けての援助を積極的に行っています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、往診医を主治医としたり、今までのかかりつけを継続したりしています。往診医は、2週間に1度の往診のほか24時間連絡が取れるようになっており、週に1度訪問看護を受け、必要に応じて訪問歯科を受けることができるような体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人にてターミナルの看取り指針が定められており、同意を頂いています。今までは、ターミナル期の受け入れの経験は無いが、家族と職員、主治医、訪問看護とも話し合いながら、受け入れていく方針です。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いは馴れ馴れしくなり過ぎないように注意をしています。また、排泄時の誘導には特に声の大きさやかけるタイミングに配慮しています。個人情報の載っている記録物は鍵のかかる場所に保管され、適切に取り扱われています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、起床や就寝時間があります。日中も個々に合わせ散歩に出かけたりしています。		

洛和グループホーム醍醐新町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行ったり、包丁を使い野菜の皮をむいたり、後片付けなど、入居者ができるところを一緒に行っています。食事時は各テーブルに職員が入り、同じ食事を楽しみながら、援助しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前、午後、夕食後に入浴できる体制をとり、タイミングなど個々に合わせて入浴できるよう支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケや編み物、新聞の切り抜きなど、以前に楽しまれていた趣味を継続できるような支援を行っています。また、日常生活の場面でも食事の後片付けなど出番がもてるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や食事に出かけたり、喫茶店に出かけおしゃべりを楽しんだりする機会があります。また、行事ではみんなで出かけ、外食や花見などを楽しんでいます。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに見守りや付き添っての外出支援を行っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防署による非難訓練のほか、2ヶ月に1度ホーム独自に避難訓練を行っています。隣が交番と前町内会会長宅であり、協力が得られるよう働きかけを行っています。	○	夜間、職員が一人になるとき、1階・2階の入居者がおり、出入り口も2箇所あるため、誘導等が困難なことが予測できます。近隣にも協力を求め、対応できる体制を作られることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当番の職員が季節のものを取り入れた献立を考え、食事を提供しています。1か月分をまとめて法人の栄養士にバランスやカロリーのチェックを受ける体制が整えられています。また、食事量は毎回チェックし、必要に応じて水分量のチェックも行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造したホームであり、家庭的で落ち着いた雰囲気があります。段差や階段はありますが、気をつけるよう目立つように印をしています。庭には石畳があり、きんかんの木や草花で季節を感じる事ができる空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は、使い慣れた家具や仏壇、布団などが持ち込まれ、それぞれに過ごしやすいように空間づくりを行っています。		